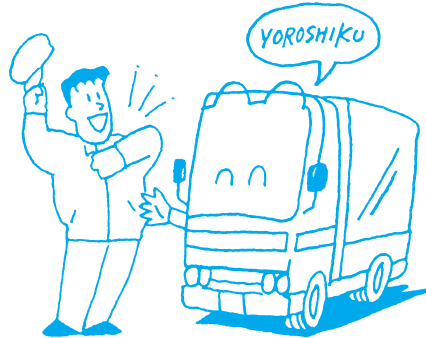


## 事故事例に学ぶ

18



### 信号機のない交差点で出会い頭に衝突

#### 事故の概要

#### 発生状況

日 時：平成14年10月某日午後5時30分頃

天 候：雨

発生場所：大和市内の交差点

#### 道路状況

片側一車線の県道と市道とが交わる信号機のない交差点

#### 事故の当事者

運転者 A (4トントラック)：41歳、男性

会社員 B (自動二輪車400cc)：20歳、男性

#### 被害状況

A：物損...車両左前部中破

B：人身...顔面挫創(全治3か月)

物損...車両右側大破

その日は山梨県甲府市内にあるH社に電気製品を納品し、帰り道、いつもの運行コースを走行し、事故現場となった交差点手前に差し掛かった。

その付近は交差点に向かって緩かな下り勾配で速度も50km/h位となり、それに加えて降り始めた小雨で路面が濡れて多少滑り気味でもあった。

しかし走り慣れた道路であり、雨天であっても「この位の速度や路面なら大丈夫。」という軽い気持ちで、そのまま交差点に向かって走行した。

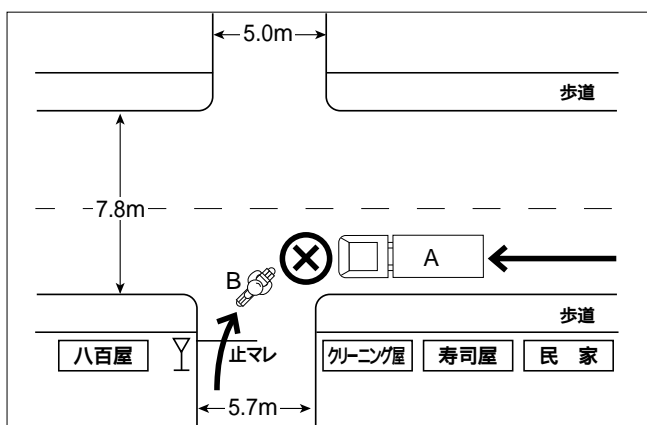
交差点の手前約50m位に差し掛かったとき、進路前方の左側交差道路からBの自動二輪車が右折のウインカーを出して、交差点に進入しようとしているのを発見した。

Aは、「自車は広い幹線道路を直進しているところから優先権がある。Bは当然停止して自車が通過するまで待っていてくれる。」と思いそのままの速度で進行した。

ところが交差点手前14～15mに接近したとき、Bが停止せずそのまま右折してきたので、慌てて急ブレーキを踏んだがスリップしながら衝突した。

#### 事故の原因

Aが運転していたコースは走り慣れた道で、道路状況も熟知しており、降雨で路面が濡れていてもいつもの運転で大丈夫と気が緩み、緊張感が欠落したまま速度の調整を怠って漫然と運転したこと。また、交差点の手前約50mのところ



### 事故状況

Aは、横浜市内のトラック運送会社に勤め18年の運転歴があり、無事故無違反のベテランドライバーであった。

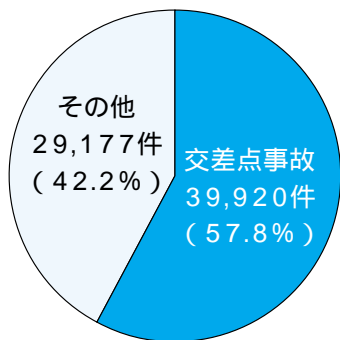
二輪車を認めていたのかかわらず、ただ単に「直進優先の原則」の思いが強く、Bの方で停止するものと思い、その動静を注意せず、減速しないで走行したことが原因です。

一方Bについては、交差点で右折する際、一時停止を怠り、かつ、右方道路の状況を確認せず、そのまま交差点に進入したことです。

#### 交差点事故（交差点付近を含む）の実態 〔神奈川県内の実態〕

平成13年中に発生した県内の人身事故は69,097件です。その内、交差点事故（交差点付近を含む）は39,920件で、全事故に対する割合は約60%を占めています。（神奈川県警察調べ）

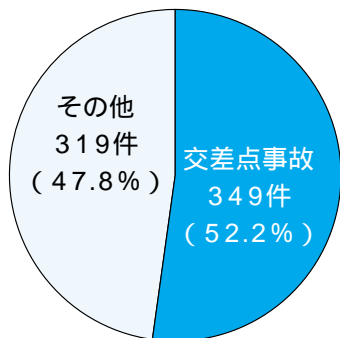
県内の人身事故(69,097件)



#### 〔神交共の実態〕

当組合の契約車両で平成13年度中に発生した人身事故（高速道路は除く）は668件でした。その内、交差点事故（交差点付近を含む）は、349件発生し全事故に対する割合は約52%を占めています。これは県内の割合と比較すると若干少ないものの、極めて高い割合を示しています。

神交共の人身事故(668件)



#### 事故防止と安全指導

#### 信号機のない交差点での事故防止

①「相手が止まってくれるだろう……」は禁物  
出合い頭事故の大部分は信号機がなく、見通しも悪い交差点で発生していますが、その一方で、交差点の見通しが良く、交差車両同士が相手の存在を確認できたはずなのに、互いに交差点に進入して出合い頭に衝突するというケースが意外に多く発生しています。

「事故となる要因としては」

- ・相手側に一時停止の標識があるから止まってくれるだろう。
- ・相手側の道路は脇道だから自車が通過するまで止まってくれるだろう。
- ・いつも車両等がいきなり出てきたことはないから、今日も出てくることはないだろう。

といった慣れや油断から、安全確認を省略した思い込みによる「だろう運転」により事故を招いているのが実態です。

信号機のない交差点に接近したら、周囲の交通状況を確認し、交差車両を認めたときは、まず減速し、必ず相手の動向をしっかりと確認することが大切です。

#### ②「右方からの車両」に注意

トラックの交差点事故の大半は、信号機のない交差点で発生しています。今回の事例は、左方道路から進入してきた自動二輪車と衝突した事故を挙げていますが、信号機のない幅員の狭い交差点での事故の多くは、トラックから見て相手が右方から進入してくるケースで、特にバイクや自転車と出合い頭に衝突する事故が多発しています。この理由は、右方道路から交差点に進入してくるバイクや自転車は左側に沿ってくるため視認性が悪いからです。また、ほとんどの車は右ハンドルで運転視界は左方に開けているため、右方の安全確認が遅れたり甘くなりがちです。

信号機のない交差点での安全確認は、まず、右方から確認しましょう。